



よこしろの空

電話 962-0357
文責 校長 石川 浩士

合言葉は、「やる気」「あたたかさ」「明るさ」

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思ます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

| 教科・区分 | 学力調査の分析(傾向や特徴) | 学力の状況 |
|-------|--|-------------|
| 国語A | <ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていましたが、言語についての知識・理解などの基本的な内容の定着が図られていました。 書く力を問う問題にやや課題があり、書くことを習慣化し、自分の考えを表現する活動を充実させる必要があります。 | 全国平均正答率との比較 |
| | | 下回っている。 |
| 国語B | <ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていましたが、記述式の問題はよくできていました。 習得した基本的な知識や技能を活用する力にやや課題が見られます。 | 全国平均正答率との比較 |
| | | 下回っている |
| 算数A | <ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をわずかに下回っていましたが、基本的な内容の定着が図れてきています。 数と計算領域と図形領域に課題が見られます。 | 全国平均正答率との比較 |
| | | 下回っている。 |
| 算数B | <ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率をやや下回っていましたが、苦手意識をもち、粘り強く取り組むことができるようになってきています。 問題を的確に読み取ったり、問題解決に必要な情報を選択したりすることに課題があります。 | 全国平均正答率との比較 |
| | | 下回っている。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っていました。 観察、実験を中心とした問題解決に取り組むことにより得られた理解が、知識・技能として確実な習得となっていないことが課題です。 | 全国平均正答率との比較 |
| | | 下回っている。 |

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

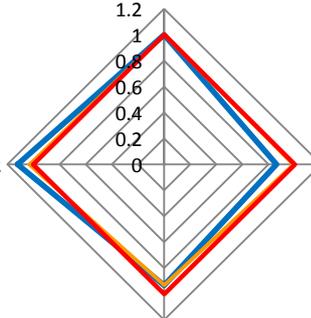
- 学力調査の結果は、国語A・国語B・算数A・算数B・理科ともに依然全国平均を下回っています。しかし、その得点差は縮まってきており、学力向上の取組の成果が表れてきています。
- 1単位時間の学習で、授業のはじめにめあてが示され、授業の最後に振り返りの活動があるという学習過程のスタンダード化が図られてきていますが、振り返りの活動にやや課題が見られます。
- 自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを苦手としている児童の割合が増えてきています。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりなど、言語活動を充実させていきます。また、小集団(ペア同士など)で説明し合う活動を積極的に取り入れ経験を積ませることや発表の仕方(スキル)を身に付けさせることにも力を入れていきます。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

※全項目「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。

授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。



— 本校 — 本市
— 全国

授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

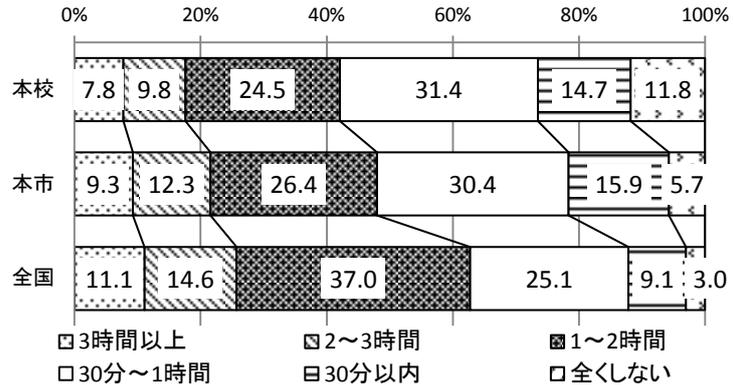
授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

・家で宿題にきちんと取り組む児童の割合は、ほぼ100%に達しており、全国平均を上回っています。しかし、1時間以上家庭学習をしている児童の割合や計画的に勉強に取り組む児童の割合は全国平均を下回っている状況が続いており、家庭学習の仕方や内容に課題があると考えられます。今後、具体的な学習の仕方を示し、計画的に学習に取り組めるように指導をしていきます。宿題の量と質の見直しも必要と考えています。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・「テレビ等を観る時間が2時間以内」「テレビゲーム等の時間が2時間以内」と答えた児童の割合は、全国平均より少なく、本校児童のテレビ視聴時間やゲーム等をする時間が長いという結果となりました。さらに、「3時間以上」と答えた児童の割合も多い状況です。

・将来の夢や希望をもっている児童の割合は、は全国平均以上です。それぞれの夢を実現させるために具体的な将来の目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要だと考えています。

・「自分にはよいところがある」と考えている児童の割合は、全国平均を約10ポイント下回っており、自己肯定感が低い状況が続いています。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎学習規律の徹底・学習習慣の確立を図ります。特にチャイム席(時間を守ること)に重点的に全校で取り組みます。
- ◎授業の充実を図ります。
 - ・チャイムとともに始まり、チャイムとともに終わる授業に取り組みます。
 - ・「めあて」「まとめ(振り返り)」のある授業展開をします。
 - ・学習形態(ペア、グループ)や活動(操作、体験など)を工夫します。
 - ・「書くこと」や「話し合うこと」など、言語活動を重視した授業に取り組みます。
 - ・デジタル教科書などのICTや、フラッシュカード(漢字など)を活用します。
 - ・基礎基本の確実な習得を目指します(その学年で習うことはその学年で確実に)。
 - ・スモールステップでの指導を大切し、認め・励まししながら達成感をもたせることにより、児童の自己肯定感を高めます。
- ◎学力向上のための朝自習の内容の充実を図ります。
 - ・全校一斉の学力向上タイムに取り組みます。【8:35~8:45の10分間】
 - 月曜日(音読)、水曜日(計算練習など)、木曜日(読書)、金曜日(漢字練習など)
- ◎過去問題、アシストシート、WEB問題などの活用を図ります。
 - ・朝自習や冬休み・春休みの「宿題帳」にします。
 - ・5年生は、3学期に過去問題に集中的な取組を実施します。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎基本的な生活習慣の定着を図ります。
 - ・「早寝、早起き、朝ごはん」に、保護者との連携しながら、全校を挙げて取り組みます。
 - ・「あいさつ運動」に全校で取り組みます。
- ◎家庭学習のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)を図ります。※家庭学習チャレンジハンドブックの活用
 - ・基本的に毎日宿題を出します。(基礎的・基本的内容の定着、学習習慣の確立のために)
 - ・学年で、家庭学習の時間や内容をそろえます。
 - (低学年・20分、中学年・40分、高学年60分)※高学年では自主学習ノートに取り組み中学校へと繋がります。
- ◎保護者への啓発を図ります。
 - ・学校HPや学校通信などで全国学力・学習状況調査の課題と取組を、保護者や地域に周知します。